

ビジネスリーダーの情報武装マガジン

Apr.2008

41

4月1日号

先見経済

Management & Economic Information SENKEN KEIZAI Since1938

特集

社長必読! 〈売れる〉組織のつくり方 ～CSからPSへ転換を図れ!～

株式会社販売開発研究所代表取締役社長 名倉康裕

シリーズ・この国の未来

「雇用や医療、教育が失われているいま、 安心して暮らせる地域を一緒につくりませんか？」

社民党党首、参議院議員 福島みずほ
聞き手/国民政治研究会理事長 田中克人

Top Interview

「いまの『勝ち』だけではなく、将来の『勝ち』も目指す」

東海大学体育学部教授、NPO法人柔道教育ソリダリティー理事長 山下泰裕
聞き手/株式会社プロ・アクティブ代表 山口哲史

時論 南無の会会長、臨濟宗妙心寺派龍源寺前住職 松原泰道

今回のゲストは、東海大学教授の山下泰裕氏です。山下氏と言えば、1984年ロス五輪金メダリスト、国民栄誉賞受賞者として知られる大柔道家です。3年前、柔道の国際普及や柔道を通じた異文化交流、青少年育成を目的とした「NPO法人柔道教育ソリダリティー」を設立され、日々国内外で活発に活動されている山下氏に、今号と次号の2回に分けてお話を伺います。

先見
トップ・インタビュー
先見
TOPview
interview

Photo/高取剛充

東海大学体育学部教授
NPO法人柔道教育ソリダリティー理事長

山下泰裕

聞き手/山口哲史 株式会社プロ・アクティブ代表

いまの「勝ち」だけでなく、 将来の「勝ち」も目指す

人を育てることが次の時代への財産

人生は 出会いと縁

山口 山下先生とはフォトリレーディングのセミナーで出会ったんですね。

山下 あのセミナーは難しかったです(笑)。

山口 私は再受講をしました(笑)。山下先生は、柔道を通して世界中に友人がいます。柔道を世界に広めることで、世界の掛け橋になる活動をされていますね。

山下 柔道には、創設者の嘉納治五郎師範の「精力善用、自他共栄」という思想があります。それに、東海大学創立者の松前重義先生の影響も大きい。先生は柔道が大好きで、「世界の中の日本」を意識する際、スポーツを通じた民間外交により、友情、平和など、異文化交流をしながら、お互いを理解していくことが大事だと繰り返し謳われていました。

山口 そうした視点でモノを見たり、考えたりする人があまりいない気がします。だから、リーダーの影響は大きい。山下先生は素晴らしい方たちに出会われていますね。山下 とても恵まれています。柔道の先生はもちろんのこと、ほかの分野でも同じことが言えます。実際に会ったことはなくても、本から学んだことも大きいですね。

山口 そのほかにも、柔道を通してさまざまな人たちとも出会われています。いまは、価値観の軸がない時代だから、価値判断が



【ホスト】山口哲史 Yamaguchi Tetsushi

1961年兵庫県生まれ。関西学院大学商学部卒業後、リクルートなどを経て90年、現（株）プロ・アクティブの前身のフィールド・アクティブを設立。竹100%でできた繊維など自然でピュアなエネルギーを活用した「人を自然に輝かせる（ラディアンス）」力のある健康、美容商品の企画・販売を手掛ける。社内外ともに「ガッツさん」の愛称で親しまれている。
<http://www.pro-active.co.jp>

自分本位になってしまいがちです。ですから、誰に出会うかは本当に大切ですね。

山下 人生は出会いと縁のような気がしますが、一つひとつの出会いを大事にしていけないといけません。

山口 自分を磨いていくことで、素敵な縁ができると思いますね。

山下 自分で自分を磨くと、その時点での自分に合った人と出会っていくのではないのでしょうか。それに、自分を磨いていないと、出会っていても、目の前を通り過ぎてしまうだけで、縁につながることもありません。でも、出会いと縁の大切さを分かっていると、いろいろな人とのつながりができる。そこで、多様な考え方を持った人が集まって知恵を絞るといいものができる気がします。その縁によって集まった人にはいろんな仕事があり、役割があります。向き不向きもありますし、仕事の良し悪しではありません。ですから、自分に一番合ったフィールドで生きていくのが、しんどくても楽しいし、やりがいがあります。

生きざまを通して人とつながる

山口 山下先生は、たくさんの方の役職を兼務されていますが、スケジュール管理が大変

ではないですか。

山下 自分にとって優先したいことや、必要だと思ったものを予定に入れていきます。だから、そんなに大変ではありません。それに、その時点で決めたスケジュールですから、状況次第で常に変えています。それに、自分の体も頭も磨いたり、鍛えたりする時間、家族との時間、リラクセスする時間などは前もって入れていますからね。

山口 そのようにしているのは、昔からですか、それとも何かあったからですか。

山下 実は、15、6年前までは、年末になるといつも自己嫌悪に陥っていたんです。というのも、私はいつも年始に今年やりたいうこと、時間を注ぎたいことを決めていました。当時は大学の監督をしていたので、学生のために思いっきり時間を使って、柔道部の指導に力を入れたいわけです。でも、現実には「柔道界のため」「日本スポーツ界のため」「青少年のため」などの理由で、いろいろなところから仕事の要請をいただき、受けることになる。結果、年末に「自分が大事だと思っていたことに十分な時間をかけていたか。どれくらい自分の人間的な成長があったのか」と、1年間を振り返ると、いろいろな要請に応えることで、結局は一番大事なことをなおざりにしたのではないかと、毎年思っていました。そうしたら、女房から「毎年暮れになると同じことを言ってる。自分を変えて断らなかつたら、毎年暮れに同じことになるよ」と言わ

れました。その言葉で、自分の中で何かかストンと落ちたんです。このことをきっかけに、スケジュール管理を変えました。

そのとき、なぜ頼まれたら断れないのか理由を考えたら、「他人に嫌われたくない」「他人との縁を切りたくない」と自分が思っていることに気づきました。

山口 ありがちな理由ですね。

山下 でも、断ることをしないと自分の成長はないので、「要請に応えられないこと」で去られる方がいても仕方がない。むしろ、自分の生きざまや生きる姿勢、行ってきたことを理解していただいた上でつながる人の縁こそを大事にしていくべきではないのか。たとえば、1年に1回、3年に1回しか会わなくても、そうした方たちとは縁がながっていきはずだ」という考えに至りました。

山口 断るには勇気が必要ですが、受けるのは簡単。相手は喜びますが断ると逆です。

山下 だけど、断りはじめてから少し気が楽になりました。実際、誰が私を忙しくしているのかと考えると、誰のせいでもない。自分自身なんです。24時間全部が自分のもので、全部自分で決められる。それに、私の意を解してスケジュールを組んでくれる秘書もいます。大変だと言っても、全部自分が組んだスケジュールなので、責任はすべて自分にあります。

山口 全部、自分の責任だということに気づいたんですね。

誰に出会うかは大事なこと